

皇室で聖書を教えた女性

たまき

植村環物語



著名な牧師、植村正久の三女として生まれ、女子学院、米国のウェルズリー大学を卒業し、津田英学塾、女子学院の教師をつとめた。

1918年に川戸州三と結婚し、翌年長女が誕生したものの、その一ヶ月後に夫が35歳で死去する、という悲運に見舞われる。その後、長男が誕生するが、小児麻痺になり、やがて死去。さらに1920年、米国に留学中の妹恵子が客死し、1925年には偉大な父、正久が召天。それをきっかけとして伝道師になる決意をする。

1925年、エディンバラ大学で神学を修め、1929年に帰国。その後、東京女子大学などで講師を務めながら、自宅で伝道を開始し、柏木伝道教会を設立。日本で2番目の女性牧師となった。

1937～38年、台湾総督府によるキリスト教主義学校弾圧に抵抗運動を起こし、台南長老教女学校の校長をつとめるかたわら、日本YWCA会長に就任。1938～51年まで、世界YWCAの副会長をつとめる。

戦後すぐに、昭和天皇と香淳皇后にトルーマン大統領へのメッセージを託され、帰国後は、皇后から内親王たちへの聖書講義の依頼を受け、皇后はもちろん、時には昭和天皇も傍聴した、と言われる。その背景には宮内庁初代長官の田島道治、侍従長の三谷隆信が二人ともクリスチャンであったことと関係があったと言われる。1955年には、前田多門、茅誠司、湯川秀樹らとともに世界平和アピール七人委員会を結成して、婦人運動家としても活躍した。

今回は、日本を代表するキリスト者、植村正久の娘として生まれた環の、先駆的な働き足跡をたどりま

す。

記

1. 日時:2016年9月9日(金) 10:30 AMより
2. 場所:ゴスペルホール(電話 026-295-6705)
3. 講師:尾崎富雄(ゴスペルホール代表)

入場無料。どなたでも参加できます。